

臨床透析 ● 総目次

第 36 卷

Vol.35 No.1~No.13

(2020 年 1 月号~12 月号)

● 特 集

《特集一覧》

- | | | | |
|--------|-------------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 月号 | 透析患者の感覚器障害 | 9 月号 | ・透析患者における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) |
| 2 月号 | 透析液・透析関連排水の諸問題 | | ・透析患者の ADL と QOL |
| 3 月号 | 腎代替療法と Shared Decision Making | | — その評価法と対策 |
| 4 月号 | 世間の荒波にもまれる CKD-MBD 治療 | 10 月号 | 高齢透析患者の療養生活支援 |
| 5 月号 | 近未来の透析医療 | | — 事例を通して見えてくるもの |
| 6 月号 | 透析患者の脳血管障害 | 11 月号 | 慢性腎臓病・透析患者の酸化ストレス |
| 7 月号 | 透析患者 PAD の最前線 | | — 最新知見と治療展開 |
| 8 月号 | バスキュラーアクセス | 12 月号 | 高齢透析患者の栄養管理 |
| | — トラブルを少なくするために | | |
| 8 月増刊号 | 血液浄化機器 2020 | | |

■ 1 月号 (vol.36 no.1) 透析患者の感覚器障害

- | | | |
|-------------------------|---|-------|
| 1. 透析患者の感覚器障害 | 鈴木 正司 | 9~15 |
| 2. 視覚障害 | | |
| (1) その実態 | 檀上 陽子 | 17~21 |
| (2) 視覚障害の対策・援護 | 山田 幸男・岩原由美子
三留五百枝・小島紀代子
大石 正夫 | 22~26 |
| 3. 味覚障害 | | |
| (1) その実態 | 田中 彰 | 29~36 |
| (2) 薬剤と味覚障害 | 愛場 庸雅 | 37~42 |
| (3) 透析患者における亜鉛欠乏と亜鉛補充療法 | 永野 伸郎・藤本 裕子
村田 優香・溜井 紀子
伊藤 恭子・筒井 貴朗 | 43~48 |
| 4. 嗅覚障害 | | |
| (1) その実態 | 三輪 高喜 | 49~54 |
| (2) 薬剤性嗅覚障害 | 谷口賢新・太田 康 | 55~60 |
| (3) 嗅覚と味覚の関連性 | | |

- | | | |
|-------------------|----------------------------|----------------|
| 5. 腎疾患と聴覚障害 | 城田 直子・金澤 良枝
高橋 俊雅・中尾 俊之 | 61~65 |
| 6. 神経障害のある足のフットケア | 後藤 大樹・加藤 明彦
小江奈美子 | 67~72
73~78 |
| [コラム] | | |
| ・透析治療と眼圧 | 長沼 俊秀・仲谷 達也 | 27~28 |

■ 2 月号 (vol.36 no.2) 透析液・透析関連排水の諸問題

- | | | |
|-----------------------------------|-------|---------|
| 1. 透析液清浄化 | | |
| (1) 日本透析医学会「2016 年版 透析液水質基準」の概要 | 川西 秀樹 | 111~122 |
| (2) 透析用水作製装置管理基準の重要ポイント | 阿瀬 智暢 | 123~130 |
| (3) 基準達成のための手順書の作成と管理の実際 | 内野 順司 | 131~140 |
| (4) 統計調査からみた「2016 年版 透析液水質基準」の達成度 | 政金 生人 | 141~146 |
| (5) 残留塩素濃度測定の実際 | | |

菅野 有造	147~152
2. 透析液濃度の適正管理	
(1) 透析液濃度測定標準化の基本的な考え方	
小久保謙一・清水 康	
村上 淳・山家 敏彦	153~158
(2) 標準化に基づく透析液濃度管理の実際	
村上 淳	159~167
(3) 標準化に伴う透析液濃度調整における注意事項	
山家 敏彦	169~174
3. 透析関連排水の適正管理	
(1) 透析装置の洗浄排水に関する東京都下水道局の対応	
高橋 明宏	175~180
(2) 透析関連排水管理の現況（アンケート調査の結果）	
宍戸 寛治・内野 順司	
友 雅司・峰島三千男	181~185
(3) 透析関連排水の適正管理に関する基本的な考え方	
峰島三千男	186~190

■ 3月号 (vol.36 no.3) 腎代替療法と Shared Decision Making

1. Shared Decision Making の意義	
会田 薫子	211~217
2. 腎代替療法の選択における Shared Decision Making のあり方	
小松 康宏	219~225
3. 治療選択支援と Shared Decision Making の課題	
内田 明子	227~232
4. 透析見合わせに関する Shared Decision Making の諸問題	
岡田 一義	233~237
5. CKD 連携体制における SDM の実際	
光宗 仁美	239~243
6. CKD 保存期における SDM の実際	
今城 博枝	245~250
7. 血液透析患者に対する SDM の実践 — 血液透析時間の短縮を望む高齢患者へのアプローチ	
白井美千代・船越 哲	251~255
8. 腹膜透析患者に対する SDM の実践	
今井 早良	257~262
9. 在宅で療養する高齢 CKD 患者に対する SDM の実践	
尾崎 直子・田畑陽一郎	
山下 淳一・吉田 正美	
後藤 真希	263~268

10. 腎移植における SDM の現状と課題	
河野 恵	269~274
11. 終末期透析患者に対する SDM	
高井 奈美	275~280
12. SDM ツールの開発	
小坂 志保	281~287

■ 4月号 (vol.36 no.4) 世間の荒波にもまれる CKD-MBD 治療

Editorial

特集の主旨	秋葉 隆	311~312
1. CKD-MBD の診断		
(1) 骨病変の診断技術 — テトラサイクリン標識に基づく骨形態計測を中心に	風間順一郎	313~320
(2) 生化学的診断		
加藤 一彦・中島 章雄		
横山啓太郎	321~328	
(3) 慢性腎臓病に関連したロコモ・フレイルの成因と予防		
今井 教雄・遠藤 直人	329~336	
2. CKD-MBD の治療		
(1) リン低下薬		
小岩 文彦・天笠 允仁	337~346	
(2) PTH 低下薬 — calcimimetics を中心に		
本田 浩一	347~355	
(3) ビタミン D 製剤再評価	濱野 高行	356~362
3. CKD-MBD の疫学		
(1) 骨折の疫学	山本 卓	363~368
(2) 生命予後との関係	木全 直樹・若山 慈恵	369~374
(3) QOL への影響	渡辺 久美・上月 正博	375~379
4. 腎移植前後の CKD-MBD 治療		
(1) 術前にどこまで治療すべきか	服部 元史	381~385
(2) 腎移植後の CKD-MBD 治療	木村 貴明・八木澤 隆	386~391

[コラム]

・ ROD から CKD-MBD への変遷	鈴木 正司	380
・ビスホスホネート製剤は CKD-MBD に適用できるか？		
① 賛成の立場から	稲葉 雅章	392~395
② 反対の立場から	風間順一郎	396~398

■ 5月号 (vol.36 no.5) 近未来の透析医療

1. 近未来の透析医療

(1) 医師の立場から

川西 秀樹 427~432

(2) 臨床工学技士の立場から

本間 崇 433~438

2. 未来の透析室・透析機器の展望

(1) 近未来のダイアライザ, ヘモダイアフィルタの開発

山下 明泰 439~444

(2) ナビゲーション透析システムの可能性

峰島三千男 445~451

(3) 血液透析装置の近未来

山下 芳久 453~458

(4) 災害時に使用可能な携行型血液浄化装置

小久保謙一・小林こず恵

山根 隆志・山本健一郎

松田 兼一 459~464

3. AI・ICTを用いた透析管理

(1) Explainable AIを用いた腎性貧血治療の適正化

友杉 直久・越野 慶隆 465~470

(2) AIを用いたCKD患者の食事療法管理

神田英一郎 471~476

(3) AIを用いた血糖管理

豊田 雅夫・村田 敬 477~484

(4) AIを用いた急性腎障害の発症予測と診断

林 晃正 485~490

(5) これからの腹膜透析データ管理

森本 耕吉・伊藤 裕 491~496

(6) 地域医療としての遠隔透析管理

風間順一郎 497~502

[コラム]

・回帰型ニューラルネットワークを用いた早期AKI診断

小丸 陽平・土井 研人 503~504

・人工材料を用いない自家細胞製人工血管の可能性と将来展望

伊藤 学 505~506

■ 6月号 (vol.36 no.6) 透析患者の脳血管障害

1. 脳血管障害の疫学

戸井田達典 529~534

2. 脳血管障害の診断

植木 香奈・松尾 龍

吾郷 哲朗 535~543

3. 脳血管障害の危険因子とその管理

(1) 血 圧

藤崎毅一郎 545~548

(2) 貧血およびESA治療

四枝 龍佑 549~554

(3) CKD-MBDと脳卒中

山田 俊輔・荒瀬 北斗

嶋本 聖 555~560

(4) 脂質異常症

庄司 哲雄 561~566

4. 心房細動例に対する抗凝固療法

鶴屋 和彦 567~574

5. 頸動脈狭窄症に対する外科治療

大川 将和 575~581

6. 脳出血に対する急性期治療

落合 秀信 583~588

7. 脳梗塞に対する急性期治療

公平 瑠奈・豊田 一則 589~592

8. くも膜下出血に対する急性期治療

松川 東俊・吉村 紳一 593~597

9. 脳血管障害急性期の透析法

江里口雅裕 599~604

10. 脳血管障害に対するリハビリテーション

村松 倫・藤谷 順子 605~609

11. 無症候性脳血管障害

長沼 俊秀・武本 佳昭 611~617

■ 7月号 (vol.36 no.7) 透析患者PADの最前線

1. 日本におけるPADに対する取り組み

小林 修三 643~650

2. 透析患者におけるPADの現況

日高 寿美 651~658

3. 透析患者におけるフットケア介入

愛甲 美穂 659~664

4. 末梢動脈の血流評価

(1) 皮膚再灌流圧 (SRPP)

前田富士子・奥野 仙二

佐野 彩季・坂井 久美

北村 悠樹・山川 智之 665~669

(2) 超音波検査を用いた末梢動脈の血流評価

原口 和樹・川崎 友裕

大久保洋平・古賀 伸彦 670~676

5. 血行再建術

(1) 透析患者のPADに対する血管内治療 (EVT)

村上 厚文・洞口 哲

加藤 盛人 677~683

(2) 透析患者の救肢をめざすdistal bypass術

谷村 信宏・藤原 一郎

山本 浩詞・安宅 啓二 684~690

6. 再生医療			
(1) 末梢血幹細胞移植	堀江 卓	691～697	
(2) 脂肪組織由来間葉系前駆細胞移植	都築 一仁・清水 優樹 柴田 玲・室原 豊明	698～703	
(3) PAD に対する新しい遺伝子治療薬—コラテジェン	森下 竜一	704～712	
7. 局所療法			
(1) 難治性潰瘍を伴う末梢循環障害に対する高気圧酸素治療の有効性	宮本 正章	713～718	
(2) デブリードメント—マゴット療法	萩原 慎・佐久田 斉 大木 隆生	719～723	
(3) 局所陰圧閉鎖療法	藤井 美樹	724～728	
8. 切断術	菊池 恭太	729～735	
11. VAIVT (vascular access interventional therapy) 法	土井 盛博	825～833	
12. 透析シャントの末梢血管および中心静脈に対するステント留置	堀田 祐紀・役田 洋平 池田 正寿・名村 正伸	835～845	
13. バスキュラーアクセスによる合併症とその対策			
(1) 術後合併症 (狭窄など)	今 裕史・植田 隆太 阪田 敏聖・佐藤 文昭	847～853	
(2) 感染症	前多 香・森兼 啓太	854～859	
[コラム]			
・ボタンホール	新里 高弘・柴田 和彦 當間 茂樹	860～861	
・小児のバスキュラーアクセス	幡谷 浩史	862～863	

■ 8月号 (vol.36 no.8) バスキュラーアクセス —トラブルを少なくするために

1. バスキュラーアクセスの現状	川西 秀樹	757～762
2. いつバスキュラーアクセスを作製するか?	花房 規男	763～768
3. バスキュラーアクセスを成功させるために術前に必要なこと	布川 雅雄	769～773
4. バスキュラーアクセスと心機能	鶴川豊世武	775～780
5. バスキュラーアクセス作製のアルゴリズム	池田 潔	781～786
6. AVF の適応と問題点	宮田 昭	787～794
7. AVG の適応—実践と工夫	丸井 祐二	795～802
8. 動脈表在化の適応と問題点	室谷 典義・白鳥 享 大森 聡・石井 公祥 杉原 裕基	803～806
9. 長期留置カテーテル留置法の適応と長期ケア	肥田 徹・小川 智也 寺尾 政昭・安田 邦彦 阿部 望・清水 泰輔 長谷川 元	807～815
10. バスキュラーアクセスと超音波診断	春口 洋昭	817～824

■ 8月増刊号 (vol.36 no.9) 血液浄化機器 2020

序論—血液浄化器に関連する法規	峰島三千男	881～883
第 I 章 血液浄化器		
1. 血液浄化器性能評価基準	峰島三千男	884～889
2. 透析器	村上 淳	889～892
3. 血液濾過器, 血液透析濾過器	柴田 昌典	893～896
4. 持続緩徐式血液濾過器	塚本 功	897～899
5. 血漿分離器・血漿成分分画器	大久保 淳	900～904
6. 血液吸着器	岩本ひとみ・古賀 伸彦	905～908
7. 血漿吸着器	金山 由紀	909～912
8. 腹水濾過器・濃縮器	渡邊 恭通	913～916
第 II 章 透析装置		
1. 多人数用透析液供給装置	高木 政雄・及川 陽平 盛 次生・合田 祐一	928～933
2. 透析装置 (コンソール)	星野 武俊	934～938
3. 透析装置 (各種自動化装置)	田岡 正宏	939～944
4. 透析装置 (各種モニタ)	大澤 貞利	945～950
5. オンライン HDF 装置 (I-HDF も含		

む)			植村 進・湊 千笑	1051～1053
6. 個人用透析装置	山本 英則	951～953	7. その他 (UF 膜, EDI, 排水回収, 排熱回収など)	山本 英則 1053～1055
7. 血液濾過装置・血液濾過透析装置	菅野 有造	954～959	第Ⅷ章 透析液, 補充液	
8. 粉末製剤溶解装置	門崎 弘樹	960～962	1. 血液透析液	松金 隆夫 1069～1071
9. 在宅血液透析装置	石森 勇	963～967	2. 血液濾過用補充液	松金 隆夫 1071～1072
10. 配管・素材等	村杉 浩	968～971	第Ⅸ章 抗凝固薬	山下 芳久 1074～1077
11. 透析排水処理装置 (pH 中和装置, 浄化槽)	山本 淳	971～975	第Ⅹ章 透析液清浄化関連機器等	
12. 透析熱回収装置	内野 順司	976～983	1. 透析液水質基準と管理	内野 順司 1078～1084
第Ⅲ章 透析通信システム	野木 雅仙	984～987	2. エンドトキシン捕捉フィルタ (ETRF)	本間 崇 1085～1088
第Ⅳ章 アフエレシス装置	森實 篤司	993～998	3. エンドトキシン測定関連機器	芝本 隆 1089～1092
1. 血漿交換装置・血漿吸着装置	山家 敏彦	999～1003	4. 細菌測定関連機器等	梶村 友隆 1093～1101
2. 血液吸着装置	山家 敏彦	1004	5. 細菌培養培地	梶村 友隆 1102～1105
3. 持続的血液浄化装置	塚本 功	1005～1008	第Ⅺ章 血液回路	安藤 勝信 1110～1113
4. 血液成分分離装置	井福 武志・竹内 正志	1009～1011	第Ⅻ章 血管アクセス	
第Ⅴ章 腹水濾過濃縮灌流装置	大久保 淳	1015～1018	1. 血液浄化用穿刺針	人見 泰正 1114～1116
第Ⅵ章 腹膜透析関連機器			2. 血液浄化用留置カテーテル	相馬 泉 1117～1121
1. 腹膜透析液	根岸 光彦	1019～1020	3. 人工血管	春口 洋昭 1122～1123
2. 自動腹膜灌流装置	根岸 光彦	1020～1023	第Ⅼ章 輸液ポンプと注入器	
3. 関連物品	根岸 光彦	1023～1024	1. 輸液ポンプ・シリンジポンプ	小川 浩之 1137～1144
4. シェアソース	金 学粋・森谷しのぶ		2. ナトリウム注入器	小川 浩之 1144～1146
第Ⅶ章 水処理装置	土橋 弥生	1025～1027	第Ⅽ章 体重計	
1. プレフィルタ	土濃塚広樹	1032～1034	1. 体重計	神戸 幸司 1147～1149
2. イオン交換装置, 軟水化装置, 純水化装置	久保 満	1035～1038	2. スケールベッド	神戸 幸司 1149～1151
3. 活性炭濾過装置	芝田 正道	1039～1040	第Ⅾ章 モニタリング機器	
4. 逆浸透装置	山下 文子	1041～1046	1. 浸透圧計	高橋 初 1153～1155
5. 個人用水処理 (RO) 装置 (HHD 用も含む)	五十嵐洋行	1047～1050	2. 電解質 (Na・K) 測定器	清水 康 1155～1156
6. 電解水透析® 透析用水作製装置			3. 血液ガス分析装置	真下 泰 1157～1158
			4. 心電計・心電図モニタ	田代 嗣晴 1159～1161
			5. 自動血圧計	田代 嗣晴 1161～1162
			6. 抗凝固モニタ (ACT) 等	山下 芳久 1163～1167

7. 緊急用検査機器 (i-STAT®)	原田 俊和	1167～1169	5. 塩分計	一噌登史紀・佐藤 諒	1235～1236
8. 各種体組成分析装置	長尾 尋智・白木 康雄 伊神 隆介・神崎 将克 武安美希子・渡辺 明美	1169～1172	6. 持続血糖測定器	矢野 利幸・原田 孝司 船越 哲	1236～1237 1237
9. 末梢循環測定装置	黒澤 洋・海老原 至 庭山 淳	1172～1175	第XX章 滅菌法	大石 義英	1238～1240
10. 超音波診断装置 (穿刺, シェント・血管管理)	木船 和弥	1175～1178	第XXI章 装置の保守・点検	土屋 智一	1241～1246
11. 透析出血感知センサ	矢野 利幸・原田 孝司 船越 哲	1178～1179	■ 9月号 (vol.36 no.10) 緊急特集 透析患者における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 緒言		
第XVI章 消毒液, 洗浄液, 排液処理				秋葉 隆	1263～1264
1. 機器用消毒剤・洗浄剤	星野 武俊	1194～1196	1. 日本と世界における COVID-19 の現状と感染対策		
2. 熱水消毒	星野 武俊	1196～1200	2. 透析患者における COVID-19 の現況と透析施設での感染対策	森兼 啓太	1265～1275
3. 生体・皮膚の消毒	中山 裕一	1200～1203		菊地 勘	1277～1283
4. 室内の消毒	中山 裕一	1203～1205	3. COVID-19 の診断と治療	四柳 宏	1284～1290
第XVII章 透析関連物品			4. COVID-19 と急性腎障害 (AKI)・急性血液浄化	小丸 陽平・土井 研人	1291～1298
1. 透析セット (消毒用セット, 穿刺部位保護・固定用セット)	花本 昌一・江村 宗郎	1210	特 集		
2. 止血器具	花本 昌一・江村 宗郎	1211	透析患者の ADL と QOL — その評価法と対策		
3. テープ類 (穿刺針および回路固定用テープ, 絆創膏など)	花本 昌一・江村 宗郎	1212	1. 透析患者における患者報告アウトカム (PRO) — ADL と QOL の評価法を中心に	加藤 明彦	1301～1308
4. 鉗子類 (ペアン)	花本 昌一・江村 宗郎	1213	2. ADL と QOL の評価法		
第XVIII章 非常用備品・設備			(1) 基本的 ADL と手段的 ADL	松沢 良太	1309～1315
1. 非常用備品	森上 辰哉	1225～1226	(2) 機能的自立度評価法 (FIM)	矢部 広樹	1316～1321
2. 非常用設備	森上 辰哉	1226～1227	(3) 運動耐容能	森山 善文	1322～1326
3. 離脱用具	森上 辰哉	1228～1229	(4) 身体機能・筋力の評価	山越 聖子・伊藤 修	1327～1332
4. 地震および水害等の対策 (機器・設備対策含む)	森上 辰哉	1230～1231	(5) 転倒・骨折リスク	山本 卓・白井 信行 北林 紘・成田 一衛	1333～1340
第XIX章 患者自己管理機器			(6) 摂食・嚥下機能	國枝頭二郎・藤島 一郎	1341～1346
1. 家庭用血圧計	渋谷 泰史	1232	(7) 健康関連 QOL	山本 洋介・福原 俊一	1347～1352
2. 体重計	渋谷 泰史	1233	3. ADL と QOL 低下の予防と対処法		
3. 血糖自己測定器	一噌登史紀	1234～1235	(1) 運動療法		
4. 歩数計・活動量計					

	内田 広康	1353～1358
(2) 食事・栄養療法	奥田 絵美・中川 幸恵	1359～1365
(3) 看護支援	西田 歩・佐藤 久光	1366～1373
(4) 血液浄化療法の工夫	金岡 泰行	1374～1379

■ 10月号 (vol.36 no.11) **高齢透析患者の療養生活支援**
—事例を通して見えてくるもの—

1. 総論		
(1) 高齢透析患者が抱える療養上の諸問題	中原 宣子	1389～1396
(2) 高齢透析患者の社会制度の現状と課題	中元 秀友・西山 強	1397～1408
2. 各論—実践報告		
(1) 認知症を呈する患者の療養生活支援	吉見美穂子	1409～1413
(2) サルコペニア・フレイルの合併を予防する視点からの療養支援	時山 美江	1415～1420
(3) 高齢透析患者の嚥下障害と対応	前岡 雄輔・安田奈緒子 小関 裕二・朝倉 洋平 堀田 直樹・安田 香	1421～1427
(4) 独居生活を送る高齢透析患者の療養生活支援と課題	大森 泉	1428～1432
(5) 高齢腹膜透析患者の療養支援と課題—患者・家族を支えるためのチーム医療と地域連携	濱井 章	1433～1438
(6) 高齢在宅血液透析患者の療養生活支援	門嶋 洋子・宮下 美子	1439～1444
(7) 高齢透析患者の人生の最終段階における看護	田中 順也	1445～1450
(8) 高齢透析患者の家族支援・地域連携—高齢者が地域で生活していくための家族・地域のサポート	山口 伸子	1451～1455
(9) 高齢透析患者に対する地域連携・コーディネーターとしての役割	松本 佳行	1457～1462

■ 11月号 (vol.36 no.12) **慢性腎臓病・透析患者の酸化ストレス**
—最新知見と治療展開—

企画にあたって—酸化ストレスをめぐる最近の展開	平山 暁	1493～1495
1. 総論・透析		
(1) 血液透析における酸化ストレスとその制御	大和田 滋	1497～1505
(2) 腹膜透析における酸化ストレスとその制御	植田 敦志	1506～1512
(3) 腎移植と酸化ストレス	芦田 明・服部 元史	1513～1519
2. 慢性腎臓病における酸化ストレス進展機序		
(1) 慢性腎臓病における Nrf2-Keap1 経路の役割	伊東 健・葛西 秋宅	1521～1527
(2) 慢性腎臓病における一酸化窒素(NO)	木戸口 慧・西山 成	1528～1533
(3) 慢性腎臓病進展における AGEs	田中誠太郎・大野 礼一 永井 竜児	1534～1538
(4) 慢性腎臓病患者の腸内細菌叢と酸化ストレス	三島 英換・菊地 晃一 阿部 高明	1539～1545
(5) 慢性腎臓病におけるキサンチンオキシダーゼの活性化	寺脇 博之	1546～1552
3. 慢性腎臓病の病態と酸化ストレス		
(1) 腎臓リハビリテーションと酸化ストレス	山越 聖子・伊藤 修	1553～1557
(2) 腎発癌における酸化ストレス	豊國 伸哉	1558～1564
(3) サルコペニア・フレイルと酸化ストレス	加藤 明彦	1565～1572
(4) CMD-MBD と酸化ストレス	岩崎 香子・深川 雅史	1573～1579
(5) CKD 患者の薬剤と酸化ストレス	西 慎一	1580～1585
[コラム]		
・自己組織化抗酸化剤による腎虚血再灌流障害治療	長崎 幸夫	1587～1589
・電解水透析と酸化ストレス	渡邊 公雄・中山 昌明	1590～1591

■ 12月号 (vol.36 no.13) 高齢透析患者の栄養管理

高齢透析患者の栄養障害はなぜ起こるのか

加藤 明彦 1601～1602

[総論]

1. 透析導入期の栄養状態・栄養療法に関する諸問題

花房 規男 1603～1608

2. 高齢維持透析患者の栄養状態の現状と課題

神田英一郎 1609～1616

3. 食事量低下に伴うミネラル、ビタミン、微量元素の異常と対策

脇野 修 1617～1624

[各論]

4. 認知症患者の食生活と栄養管理

瀬戸 由美 1625～1630

5. オーラルフレイルの実態と栄養管理

市川 和子 1631～1638

6. 透析日・非透析日に応じた栄養管理

島田千賀子・海老原 至 1639～1644

7. 高齢血液透析患者における食料品アクセス問題と栄養状態との関連

北林 紘・片野 佑美

小田 祐子・池田 良

石井 雄士

1645～1651

8. 高齢腹膜透析患者の栄養管理

加藤 明彦

1653～1660

9. 栄養教育のための指導媒体とその有用性

射場裕美子

1661～1665

10. 運動リハビリテーションと栄養

吉澤 亮・前波 輝彦

1666～1672

11. 低栄養患者への栄養補給法の実践

(1) 経口的栄養補助 (ONS)

朝倉 洋平・安田 香

堀田 直樹

1673～1678

(2) IDPN

川畑 奈緒

1679～1684

[コラム]

・透析中の栄養補給

市川 和子

1685～1686

・電解質異常と死亡リスク

脇野 修

1687～1688

● OPINION

1月号 (vol.36 no.1)

変わる常識

藤垣 嘉秀

7～8

2月号 (vol.36 no.2)

オーバーナイト透析

中野 敏昭

109～110

3月号 (vol.36 no.3)

生活習慣のモニタリング

斎藤 知栄

209～210

4月号 (vol.36 no.4)

医師の表現力

小林 修三

309～310

5月号 (vol.36 no.5)

Chasm 考

安藤 康宏

425～426

6月号 (vol.36 no.6)

救急医がみた透析の世界

服部 憲幸

527～528

7月号 (vol.36 no.7)

チーム医療

辻本 吉広

641～642

8月号 (vol.36 no.8)

ポストコロナ時代の透析医療

—看護の力が問われる時代がくる—

下山 節子

755～756

9月号 (vol.36 no.10)

COVID-19 と診療応招 (義務)

佐藤 壽伸

1259～1260

10月号 (vol.36 no.11)

オールドノーマルと守破離

濱野 高行

1387～1388

11月号 (vol.36 no.12)

太田和夫先生の著書“透析療法の歴史

—先人達の軌跡をたどって”から、

予想外の繋がりへ

佐々木 環

1491～1492

12月号 (vol.36 no.13)

COVID-19 感染対策と診療の両立

小林 竜

1599～1600

● 症例による透析患者の画像診断

1月号 (vol.36 no.1)

維持血液透析患者に発症したフルニエ壊疽の1例

鈴木 梨江・宮岡 良卓

高橋 秀幸・和田 貴彦

長井 美穂・長岡 由女

菅野 義彦

87～90

2月号 (vol.36 no.2)

血液透析患者に発症した粟粒結核の1例

宮里 紘太・高島 弘至 鄭 立晃・田中 裕也 阿部 雅紀	197～201	6月号 (vol.36 no.6) 維持透析患者に発症した感染性心内 膜炎の1例	齋藤 優・宮岡 良卓 永井麻梨恵・和田 貴彦 福原 祐樹・菅野 義彦	629～633
3月号 (vol.36 no.3) 深腸骨回旋動脈末梢枝動脈瘤破裂をき たした MPO-ANCA 陽性顕微鏡的多 発血管炎の1例	平塩 秀磨・佐藤 彩加 山田 有美・正木 崇生	297～301	7月号 (vol.36 no.7) 胸鎖関節敗血症性関節炎に対して鎖骨 の骨搔爬術・腐骨切除が奏効した1例 持田 泰寛・守矢 英和 小林 修三	743～747
4月号 (vol.36 no.4) 外傷性血胸を発症した腹膜透析患者の 1例	秋谷友里恵・古川 哲也 北井 真貴・奈倉千苗美 阿部 雅紀	413～417	10月号 (vol.36 no.11) 維持血液透析患者に発症した進行性多 巣性白質脳症の1例 千葉 祐貴・小山 千佳 小島 慶恵・吉田 舞 大江 佑治・岡本 好司 藤倉 恵美・長澤 将 西山 修平・割田 仁 中道 一生・宮崎真理子	1473～1476
5月号 (vol.36 no.5) 腹部 CT が PKD の腎嚢胞感染の診断 に有用であった1例	影山美希子・岩瀬茉未子 荒川 洋・植田 敦志	515～519		

●ケース・スタディ

1月号 (vol.36 no.1) 急性腎障害回復後に腎性尿崩症を続発した1例	宇山 聡子・井口 太郎 佐々木美緒・白鳥 君利 島崎めぐみ・高野橋誓子 山田 慶・戸川 証	81～86	の1例	稲熊 大城・成宮 利幸 平野 恭子・小出 滋久 湯澤由紀夫	507～514
2月号 (vol.36 no.2) 左室肥大を伴う心不全を発症した維持血液透析患者の1例	金子 真以・石淵 絹人 岩倉 孝政・深澤 洋敏 古谷 隆一	191～196	6月号 (vol.36 no.6) AVG (arteriovenous graft) 感染後に徐脈を呈した血液透析患者の1例	清水 芳男・若林 啓一 岸田 千晶・大熊 輝之 鈴木 祐介・富野康日己	619～627
3月号 (vol.36 no.3) 呼吸促進で異常を認知した急性腎障害の1例	林 早紀・安田日出夫	289～295	7月号 (vol.36 no.7) 出口部感染遷延のためのPDカテーテル抜去後に腹膜炎を認めた1例	村上 雅章・森 潔 木村 翔太・藤原 祐一 山本 凱大・森 典子	737～742
4月号 (vol.36 no.4) 発熱、咳、倦怠感を契機に入院した急性腎障害患者の1例	山田 俊輔・恒吉 章治 松本 英展・中野 敏昭	403～411	10月号 (vol.36 no.11) 急速な骨髄病変の進行を伴ったネフローゼ症候群の1例	高柳 俊亮・遠藤修一郎 石井 輝・松原 雄 柳田 素子	1463～1472
5月号 (vol.36 no.5) 横隔膜交通症をきたした腹膜透析患者					

●話題・論点

4月号 (vol.36 no.4) 新型コロナウイルス	本田 浩一	399～400	透析医療と新型コロナウイルス感染症	森下 義幸	401～402
--------------------------------	-------	---------	-------------------	-------	---------

●研究・報告

1月号 (vol.36 no.1)

〔症例報告〕視神経脊髄炎に対し、選択的
血漿交換を施行した1例

加藤 彰浩・加藤 浩介
見須 有祐・山田 孝子

91～94

〔研究報告〕維持血液透析患者における
シナカルセットからエボカルセットへの変
更後の有用性の検討

志内 敏郎・村上 真也
川原 和彦

95～100

8月号 (vol.36 no.8)

〔症例報告〕血液透析回路中の可塑性
DEHPに対して、アナフィラキシーシ
ョックを起こしたことが疑われた血液

透析患者の1例

渋谷 論之・岩崎 圭右
海老原正行・安部えりこ
原 美朋・竹下 康代

864～867

10月号 (vol.36 no.11)

〔研究報告〕外来透析施設における運動
療法の導入に関する問題点と対応策
—理学療法士不在の施設における取
り組み

杉本 浩子・石川友美子
山田 直美・榊原 愛子
中村 京子・石本 恵
山口 慶子・畦倉 久紀
矢部 広樹

1477～1484

●研究会報告

1月号 (vol.36 no.1)

第30回 日本サイコネフロロジー研究
会

船越 哲

79

●追 悼

1月号 (vol.36 no.1)

酒井 糾先生の旅立ちを偲んで

鈴木 正司

6

本誌の本年1年間の編集委員、編集協力者は以下のとおりです。また、本誌の刊行にあたりご協
力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。 [(株)日本メディカルセンター]

■編集委員

鈴木 正司	原田 孝司	秋葉 隆	伊丹 儀友	小松 康宏	西 慎一
中山 昌明	加藤 明彦	花房 規男	下山 節子	水附 裕子	佐藤 久光
中原 宣子	三村 洋美	市川 和子	齋藤かしこ	峰島三千男	山下 芳久

■編集顧問

川口 良人 浅野 泰 宇田 有希

(敬称略)

■創刊以来ご尽力いただいた歴代編集委員

前田 貞亮 (故人)	黒川 清	佐藤喜一郎	中川成之輔 (故人)
酒井 糾 (故人)	大平 整爾 (故人)	平澤 由平* (故人)	
春木 繁一* (故人)	落合 福江	吉岡 典	足立 悦子 白井 昭子
安西志保子	川崎 忠行	赤間 立枝	(敬称略, *: 特別編集委員)